



平成27年度 第1回 横浜市救急業務検討委員会 次第

平成27年 5月19日（火）
午後6時30分から
横浜市健康福祉総合センター
6階 会議室

1 開会

2 議題

- (1) 救急に関する広報のあり方について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料1】
- (2) 横浜市救急受診ガイド（冊子版）について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料2】

3 その他

横浜市救急業務検討委員会 委員名簿

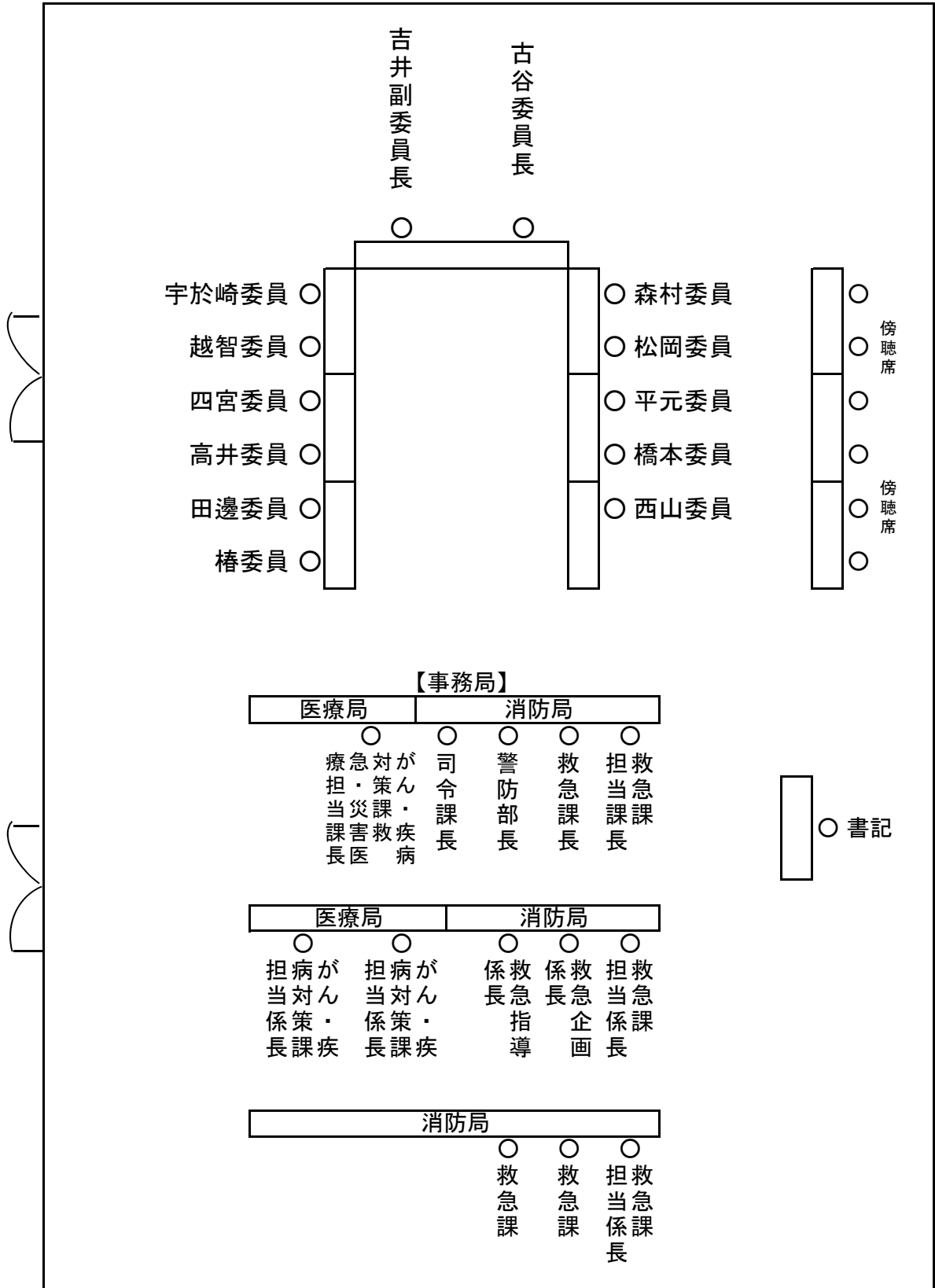
有限会社 エンカツ社 代表取締役社長	うおざき ひろみ 宇 於 崎 裕 美
Journalist Freelance	おち とよこ 越 智 登 代 子
横浜市立みなと赤十字病院 院長	しのみや けんいち 四 宮 謙 一
弁護士	たかい かえこ 高 井 佳 江 子
横浜市社会福祉協議会 社会福祉部長	たなべ ゆうこ 田 邊 裕 子
神奈川新聞社 経営管理局 総務部	つばき まり 椿 真 理
一般社団法人横浜市医師会 常任理事	にしやま たかふみ 西 山 貴 郁
杏林大学 総合政策学部 教授	はしもと ゆうたろう 橋 本 雄 太 郎
公益社団法人横浜市病院協会 副会長	ひらもと まこと 平 元 周
一般社団法人横浜市医師会 会長	ふるや まさひろ 古 谷 正 博
NPO法人グリーンママ 緑区地域子育て支援拠点いっぽ 施設長	まつおか よしこ 松 岡 美 子
横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター 部長 横浜市メディカルコントロール協議会 会長	もりむら なおと 森 村 尚 登
公益社団法人横浜市病院協会 会長	よしい ひろし 吉 井 宏

五十音順;敬称略

計 13名

横浜市救急業務検討委員会 席次表

平成27年5月19日(火)
 18時30分から
 横浜市健康福祉総合センター
 6階 会議室



平成 27 年度 横浜市救急業務検討委員会 資料

— 議題 —

「救急に関する広報のあり方」について

— 目的 —

今後も救急出場件数が増加することが推測されるため、横浜市救急業務検討委員会では未然に防げるケガによる救急要請の減少を図ることを目的として、平成 23 年度から 24 年度にかけて「ケガ予防をはじめとした予防救急の推進」について検討されました。

平成 25 年度には、検討結果を基に「救急搬送事例から見たケガの予防対策」パンフレットを発行し、広報を実施しましたが、平成 25 年中の一般負傷（いわゆるケガ）による救急出場件数は前年より増加したことから、**市民の皆様「ケガの予防」という概念を一層定着させ、救急出場件数の減少を図る必要があります。**

また、平成 26 年 12 月から横浜市救急受診ガイドが運用開始され、家庭内で緊急度・重症度の判断を確認できるツールができたことから、**救急車の適正利用につなげていくためにも横浜市救急受診ガイドの広報・啓発を図る必要があります。**

以上のことから、新たな視点と方策による「救急に関する広報のあり方」について検討していきます。

— 平成 26 年度検討結果まとめ —

課題

- ・ 救急出場件数の増加を防ぐ取組として、「ケガの予防」について広報を実施しているが、「ケガの予防」の概念が市民に浸透していない。
- ・ 緊急性の高い傷病者をより早く、より適切な医療機関に搬送する取組として運用開始した、家庭内で緊急度等の判定結果を確認できる「横浜市救急受診ガイド」の市民周知と利用率の向上

- ・ ターゲットは？
- ・ メッセージは？
- ・ 効果的に伝えるには？

「救急に関する広報のあり方」については、以下の方向性により、より具体的な広報手段の検討が必要である。

今後の検討の方向性 ～効果的な広報について～

【統計データの分析などに関すること】

- ・ 救急搬送統計のさらなる解析をして問題点をあぶり出す必要がある。（※年代別など）
- ・ 新しい取組における市民周知率の調査をする必要がある。

【体制の整備に関すること】

- ・ 救急受診ガイドを機能させるためには、救急相談サービスの整備も必要である。

【年代別の対策に関すること】

- ・ 高齢者施設からの救急要請時に救急隊が円滑に活動できるためのルール作りが必要なのではないか。
- ・ 子育て世代、高齢者など年代によって抱えている不安や状況が異なるので、年代の特徴を捉えた対策を立てる必要がある。
- ・ 年代によって興味、関心の幅は様々であり、情報の入手方法も異なるため、どの年代に何を伝えたいか、どのような広報媒体を活用すれば効果があるのかを意識して情報発信する必要がある。

【イベントでの広報】

- ・ 救急受診ガイドの使い方の広報、デモンストレーションなどを行ってはどうか。

【関係機関・施設との連携等】

- ・ 市役所、保健所、医療機関との連携を図る必要がある。
- ・ 高齢者施設、老人会、医療機関、地域などへは個別対応で広報する必要がある。

【民間企業の活用】

- ・ 携帯電話会社などを活用して救急受診ガイドの使い方を広報してはどうか。

【マスコミの活用】

- ・ 新しい情報は、早めの情報発信とプレスリリースのタイミングなど工夫が必要である。

【地域との関係づくり】

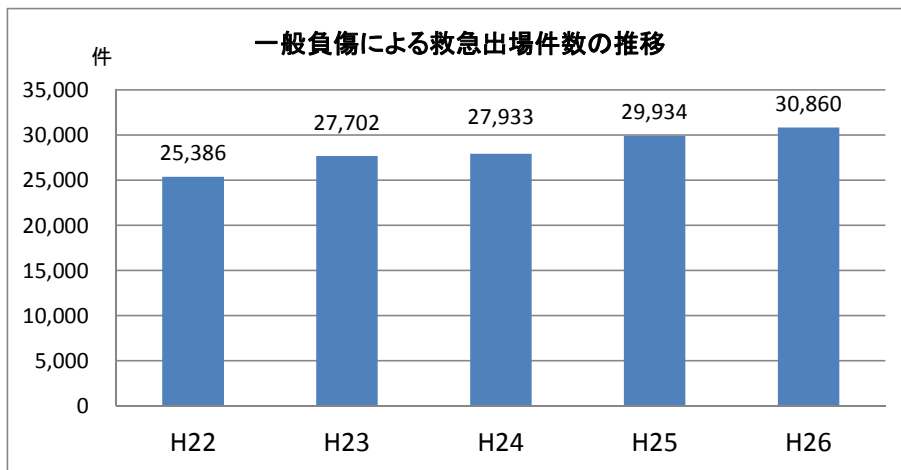
- ・ 効果的に広報を行うには、地域に出向き、市民一人ひとりとのコミュニケーション作りが大切である。

— 検討結果を基に実施した試行的取組の進捗状況 —

26年に試行的に実施した取組		進捗状況	課題等
対象を絞った広報の試行	ケガによる救急搬送が多い地域に対する積極的なケガ予防の広報活動	平成26年中の一般負傷による救急搬送件数は平成25年中より増加したものの増加率は減少した。 (別添1参照)	増加率への影響は、広報効果とは判断し難いため、 <u>引き続き分析と検討が必要。</u>
	高齢者施設に対し、救急車を要請した時のための事前準備(入所者情報の整理など)や医療機関との連携などについて提示した。	高齢者施設から入所者情報の整理方法などについて複数の問い合わせがあった。	今後は、 <u>救急隊の現場滞在時間への影響、円滑な活動が行えているかどうかについて救急隊にヒアリングを行うなど、調査が必要。</u>
	子育て世代を対象とした育児教室などに参加し、「ケガの予防対策」パンフレットを活用した広報を実施	実際に起こった事例が掲載されているので、とても分かりやすいとの声を複数いただいている。一方、 <u>実際にケガをしてしまったときの対処方法を知りたい、救急車を要請する基準を知りたいなどの御意見をいただいている。</u>	引き続き、救命講習の実施と、 <u>横浜市救急受診ガイドの広報を併せて行っていく必要がある。</u>
様々な広報手段の試行	医療機関の待合室などに「ケガの予防対策」パンフレットを置いていただくよう協力依頼を実施	複数の医療機関から在庫がなくなったので追加配布の依頼あった。 ※平成26年度は約1万部を医療機関に置いていただいた。	医療機関以外の配付先の検討など、 <u>新たな展開を検討する必要がある。</u>
	子育て世代を対象としたイベントにおいて、参加者に対し危険予知トレーニングを実施 ※平成26年度は一部の地域で実施	自ら考えるのが印象に残るとの声をいただいている。広報を行っている職員からは、 <u>画像や動画で広報できるとよりやりやすい</u> との意見があった。	より効果的な広報の実施に向けて、 <u>体験型の広報ができる資器材やシステムの整備が必要である。</u>
	「横浜市救急受診ガイド」の広報 ・早めの記者発表等 ・医療機関に対するポスター掲出の協力依頼 ・イベント等における広報	運用開始から4か月が経過し、徐々にアクセス数が増加している。(別添2参照)	市民の認知率を把握するため、外部機関を活用した <u>実態調査をする必要がある。</u>

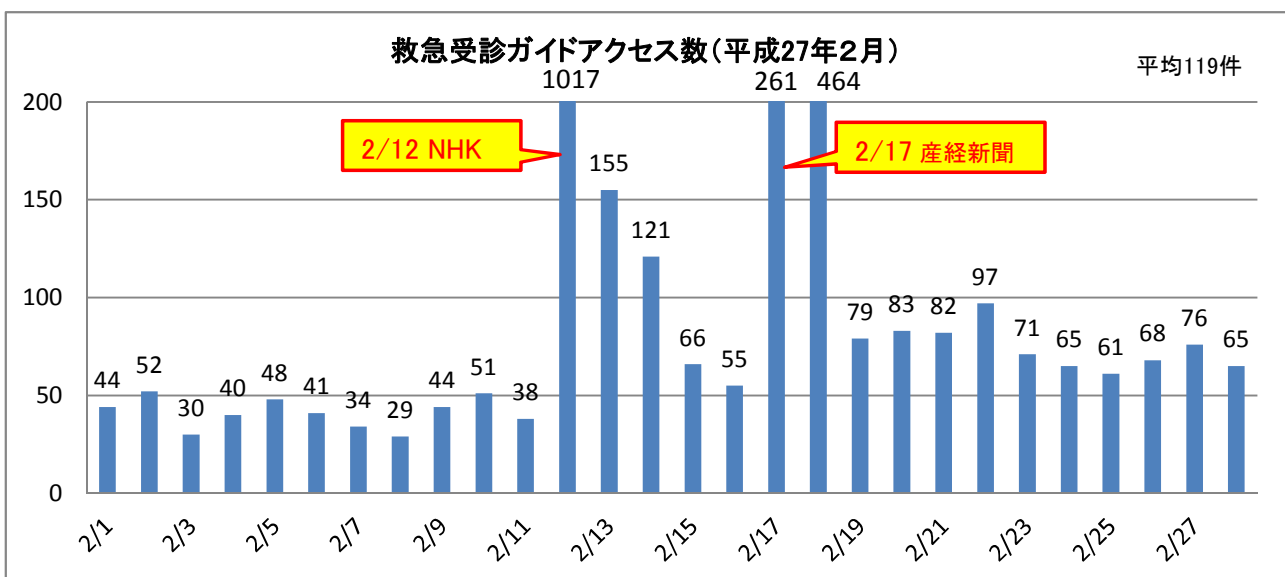
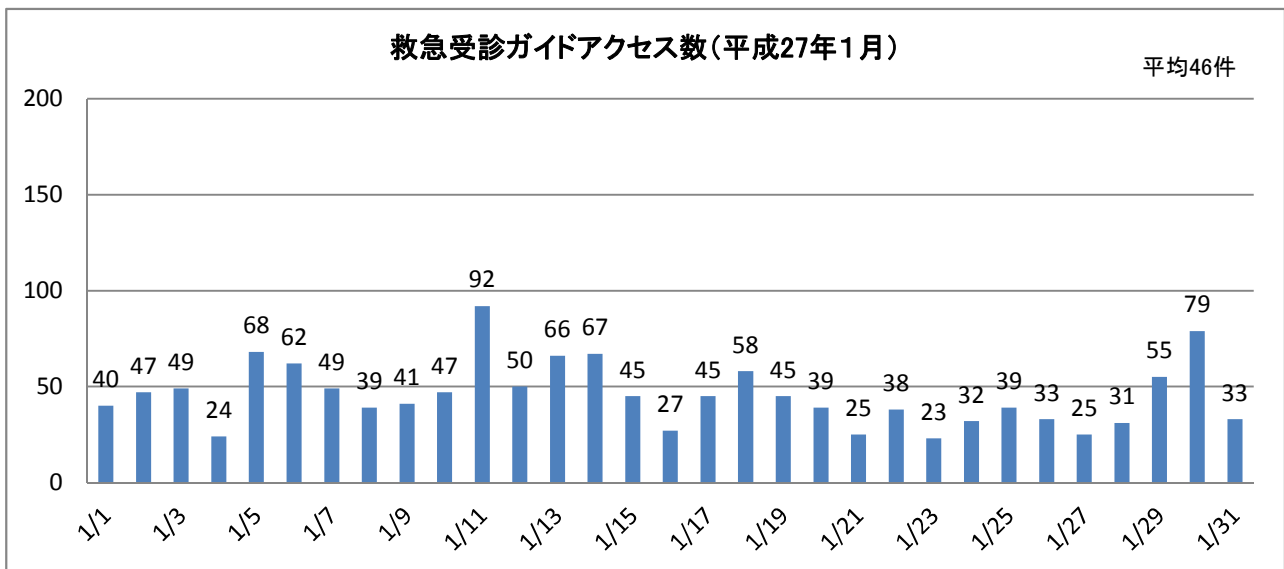
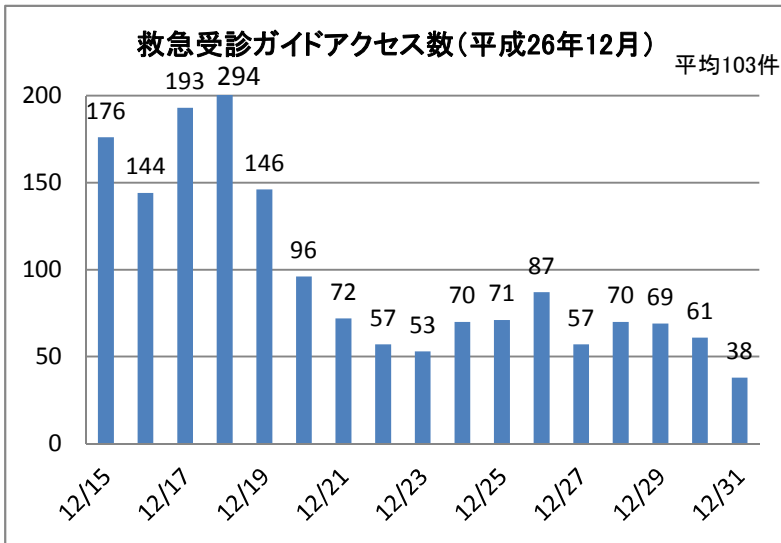
一般負傷による救急出場件数の推移

	H22	H23	H24	H25	H26
救急出場件数	25,386	27,702	27,933	29,934	30,860
前年比	-	2,316	231	2,001	926
増加率	-	9.1%	0.8%	7.2%	3.1%



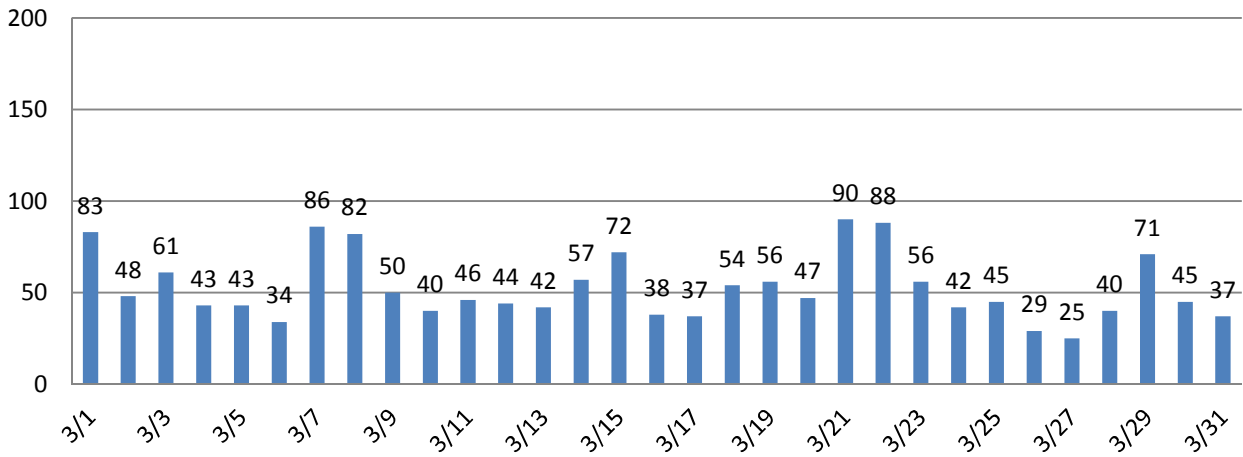
横浜市救急受診ガイド月別アクセス数

平成27年5月



救急受診ガイドアクセス数(平成27年3月)

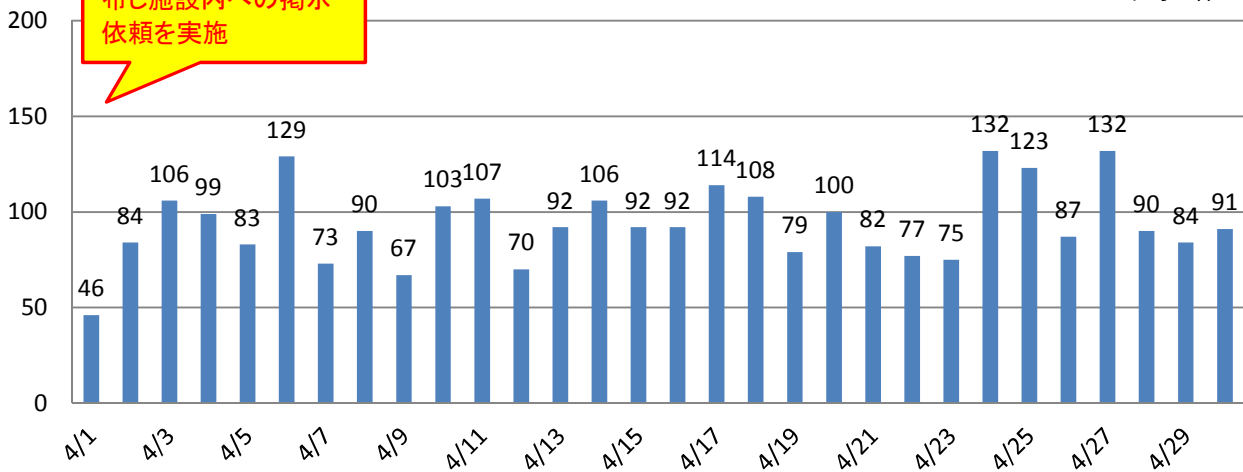
平均53件



4/1～ポスターを市内
約2050医療機関に配
布し施設内への掲示
依頼を実施

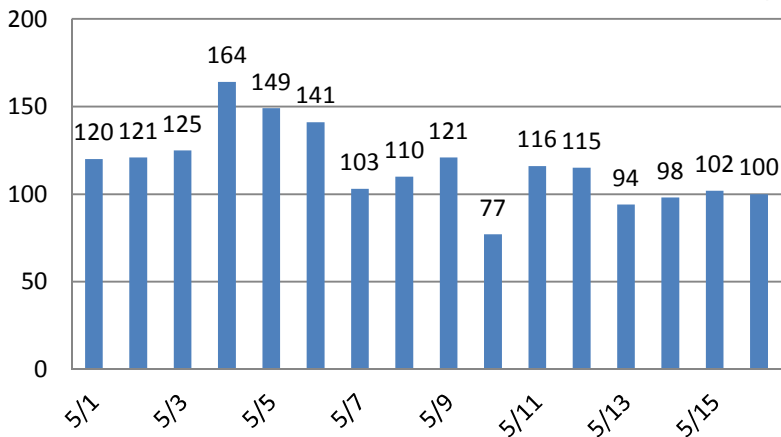
救急受診ガイドアクセス数(平成27年4月)

平均94件



救急受診ガイドアクセス数(平成27年5月)

平均116件



急な病気やけがで迷ったら

救急受診ガイド



救急受診ガイドについて

急な病気やケガの際に、ご自身で緊急性を判断することは非常に難しいと思います。当ガイドは緊急性の高いと思われる症状や横浜市の救急医療情報について掲載しています。救急車の要請や病院受診の判断の参考にして下さい。

救急車を呼んでほしい症状

●大人

意識の障害

意識がない（返事がない）又は
おかしい（もうろうとしている）
ぐったりしている



けいれん

けいれんが止まらない
けいれんが止まっても、
意識がもどらない



けが・やけど

大量の出血を伴う外傷
広範囲のやけど



顔の症状

顔半分が動きにくい、あるいはしびれる
ニッコリ笑うと 口や顔の片方がゆがむ
ろれつがまわりにくい、うまく話せない
視野がかける
ものが突然二重に見える
顔色が明らかに悪い



手足の症状

突然のしびれ
突然、片方の腕や足に
力が入らなくなる



吐き気

冷や汗を伴うような
強い吐き気



飲み込み

食べ物をのどにつまらせて、
呼吸が苦しい
変なものを飲み込んで、意識がない



事故

交通事故にあった
（強い衝撃を受けた）
水におぼれている
高所から転落



頭の症状

突然の激しい頭痛
突然の高熱
支えなしで立てないぐらい
急にふらつく



胸・背中の症状

突然の激痛、
急な息切れ、呼吸困難
胸の中央が締め付けら
れるような、または
圧迫されるような痛みが
2～3分続く
痛む場所が移動する



腹の症状

突然の激しい腹痛
持続する激しい腹痛
吐血や下血がある



●小児（15歳未満）

意識の障害

意識がない（返事がない）
又はおかしい
（もうろうとしている）



生まれて3カ月未満の乳児

乳児の様子がおかしい



飲み込み

変なものを飲み込んで、
意識がない



やけど

痛みのひどいやけど
広範囲のやけど



顔の症状

くちびるの色が
紫色で、呼吸が弱い



胸・背中の症状

激しい咳やゼーゼー
して呼吸が苦しく、
顔色が悪い



手足の症状

手足が硬直している



じんましん

虫に刺されて、
全身にじんましん
が出て、顔色が悪くなった



けいれん

けいれんが止まらない
けいれんが止まっても、
意識がもどらない



事故

交通事故にあった
（強い衝撃を受けた）
水におぼれている
高所から転落



頭の症状

頭を痛がって、
けいれんがある
頭を強くぶつけて、
出血がとまらない、
意識がない、
けいれんがある



腹の症状

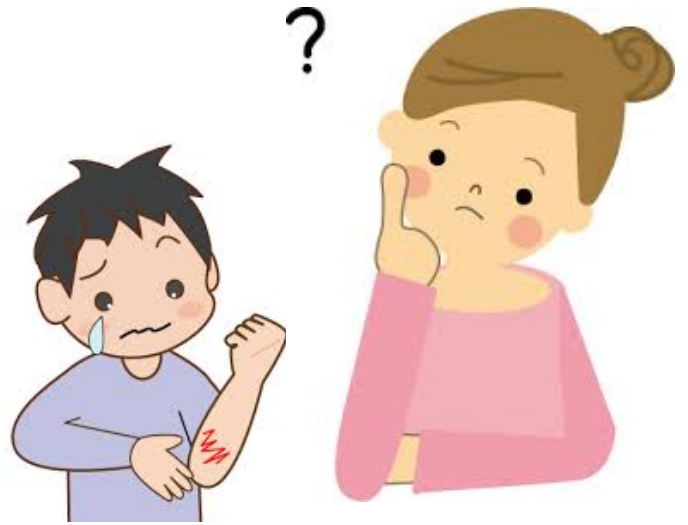
激しい下痢や嘔吐で
水分が取れず
食欲がなく意識が
はっきりしない
激しいおなかの痛み
で苦しがり、
嘔吐が止まらない
ウンチに血がまじった



救急車の要請・病院受診を迷ったら

●判断に迷う場合

咳・鼻水の症状がある。
発熱の症状がある。
疲労感がある。
転んで足を擦りむいた。
何かを飲み込んだが症状はない。
鼻血が出たが今は止まっている。
食欲が低下している。



迷いやすい症状を掲載する。

●救急車を要請するときは

迷っている人を対象として
・救急車要請の手引き
・用意しておくもの 等

●救急電話相談サービス

#7499について紹介

●横浜市救急受診ガイド（パソコン・スマートフォン版）

WEB版について



救急医療情報

● 受診できる医療機関を探すときは

救急医療情報センター

電話 #7499 年中無休/24時間

(つながらない場合は)

電話 045-227-7499 045-201-1199

FAX 045-212-3808 (聴覚障害者専用)



● お子さんの急病時などの相談は

横浜市小児救急電話相談

電話 #7499 平日18時～翌朝9時 土曜13時～翌朝9時
日祝・年末年始9時～翌朝9時

(つながらない場合は)

電話 045-227-7499

045-201-1174



● 夜間の急病で受診するときは

横浜市夜間急病センター

内科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科

電話 045-212-3535 住所 中区桜木町1-1
毎夜間/受付時間20時～24時

横浜市北部夜間急病センター

内科・小児科 電話 045-911-0088

住所 都筑区牛久保西1-23-4
毎夜間/受付時間19時30分～24時

横浜市南西部夜間急病センター

内科・小児科

電話 045-806-0921 住所 泉区中田北1-9-8
毎夜間/受付時間19時30分～24時

● たばこ・洗剤などの誤飲の際の相談電話です。

中毒情報相談室
(神奈川県医師会)

電話 045-262-4199

年中無休/24時間

つくば中毒110番

電話 029-852-9999

年中無休/9:00～21:00

大阪中毒110番

電話 072-727-2499

年中無休/24時間

●各区休日急患診療所（日曜・休日・年末年始）

施設名	受付時間	診療科目	住所 電話番号
鶴見区休日急患診療所	9時50分～15時30分	内科 小児科	鶴見区鶴見中央3-4-22 ☎045-503-3851
神奈川区休日急患診療所	10時～16時	内科 小児科	神奈川区反町1-8-4 ☎045-317-5474
西区休日急患診療所	10時～16時	内科 小児科	西区中央1-15-18 ☎045-322-5715
中区休日急患診療所	10時～16時	内科 小児科	中区本牧町2-353 ☎045-622-6372
南区休日急患診療所	9時30分～15時30分	内科 小児科	南区宿町4-76-1 ☎045-731-2416
港南区休日急患診療所	9時45分～15時45分	内科 小児科	港南区港南中央通7-29 ☎045-842-8806
保土ヶ谷区休日急患診療所	9時30分～15時30分	内科 小児科	保土ヶ谷区天王町1-21 ☎045-335-5975
旭区休日急患診療所	9時30分～16時	内科 小児科	旭区二俣川1-88-16 ☎045-363-2020
磯子区休日急患診療所	10時～16時	内科 小児科	磯子区滝頭2-31-6 ☎045-753-6011
金沢区休日急患診療所	9時30分～16時(内・小) 9時30分～12時(歯)	内科・歯科 小児科	金沢区金沢町48 ☎045-782-8785
港北区休日急患診療所	9時50分～15時50分	内科 小児科	港北区菊名4-4-22 ☎045-433-2311
緑区休日急患診療所	10時～16時	内科 小児科	緑区中山町1156-6 ☎045-937-2300
青葉区休日急患診療所	9時～12時 13時～16時	内科 小児科	青葉区藤が丘2-20-10 ☎045-973-2707
都筑区休日急患診療所	9時30分～16時	内科 小児科	都筑区牛久保西1-23-4 ☎045-911-0088
戸塚区休日急患診療所	9時45分～16時	内科 小児科	戸塚区原宿3-59-2 ☎045-852-6221
栄区休日急患診療所	9時30分～16時	内科 小児科	栄区公田町635-7 ☎045-893-2999
泉区休日急患診療所	9時45分～16時	内科 小児科	泉区中田北1-9-8 ☎045-801-2280
瀬谷区休日急患診療所	9時30分～16時	内科 小児科	瀬谷区橋戸1-36-1 ☎045-302-5115

救急受診ガイド（平成27年●●月発行）

発行 横浜市消防局警防部救急課
〒240-0001
神奈川県横浜市保土ヶ谷区川辺町2-9
045-334-6773